

安元公正

悪性腫瘍の随伴症状には腫瘍自身によるサイトカイン産生が原因となることがある。今回我々は非感染性の発熱と白血球増多を伴う原発性肺癌2例を経験した。1例目はcT3N2M0, stage IIIAの腺癌, 2例目はcT3N2M0, stage IIIAの扁平上皮癌であり, いずれの症例にもシスプラチンによる気管支動脈内注入療法を行い, 2例目には放射線治療を併用した。この2症例について末梢静脈血中のIL-6の測定を治療前後で行った。2症例とも治療後は発熱の改善と白血球の低下, それと平行してIL-6の低下を認めており, 両者の関連が示唆された。現在, GM-CSF, G-CSFについても解析中である。

61. 原発性非小細胞肺癌におけるp16発現の免疫組織化学的検討

産業医大第2外科 多賀 聡
大崎敏弘, 大神 明, 蓮田正太
榮福亮三, 竹之山光広
吉松 隆, 吉野一郎, 橋本光孝
中西良一, 安元公正

p16は9P21上の癌抑制遺伝子CDKN2によってコードされる細胞周期調節因子でCDKN2の遺伝子異常により細胞核での発現喪失が認められる。今回, 我々は原発性非小細胞肺癌88例を対象とし, 抗p16抗体を用いた免疫染色を行い, 臨床病理学的因子との関連を検討した。17例(19.3%)で癌細胞核のp16発現喪失を認めた。年齢, 性別, T, N因子, 病期等の臨床病理学的因子及び予後との関連はなかったが, 組織型では扁平上皮癌に発現喪失を多く認めた。

62. 非小細胞肺癌におけるHGF/SFの発現とc-METの動態に関する検討

長崎大第1外科

佐々野修, 田川 泰, 柴崎信一
柴田良仁, 辻 孝, 澤井照光
安武 亨, 原 信介, 綾部公認

HGF / SF は Mitogen, Motogen, Morphogenといった多岐にわたる生物学的活性を有しc-METはこのreceptorである。今回我々は非小細胞肺癌におけるこれらの発現とHGF/SFがc-MET発現に及ぼす影響について検討した。肺非小細胞肺癌において組織中のHGF/SF濃度高値群が低値群に比べ予後不良の傾向にあった。一方c-METに関してはc-MET発現陽性群が陰性群に比べ予後良好であった。HGF/SFを添加培養することによってA-549細胞に発現しているc-MET量は減少した。

63. アデノウイルスベクターを用いた肺癌細胞へのp53遺伝子導入の基礎的検討

九州大呼吸器科 高山浩一
斐 新海, 中西洋一, 川崎雅之
八並 淳, 若松謙太郎
水野圭子, 鶴田伸子, 原 信之
同 循環器内科 上野 光

4種のヒト肺癌細胞株に対し, アデノウイルスベクターを用いてp53遺伝子の導入を試みた。moi50で細胞株H1299, H157は完全に増殖が抑制されたが, 他の細胞株H460, H322では増殖抑制効果は弱かった。Beta-Galactosidase遺伝子導入により導入効率を検討したところ増殖抑制が強く認められた細胞株は導入効率が高かった。アデノウイルスベクターによる遺伝子導入効率は細胞腫によって異なり, ウイルスに対する親和性に影響されると考えられた。

64. 肺癌組織におけるDNAトポイソメラーゼIの解析

長崎大第2内科 高谷 洋

福田 実, 岡三喜男, 藤野 了
河野 茂

[目的]肺癌臨床におけるトポイソメラーゼI(トポI)阻害剤に対する自然耐性に関与する因子を検討する。[対象と方法]44例の未治療肺癌手術検体を材料とした。変異トポIの検出はPCR-SSCP法, トポI量はWestern blottingで測定した。[結果と考察]44例(腺癌23例, 扁平上皮癌21例)ではSSCPにおいて異常な移動度を示す検体はなかった。トポI蛋白質量は検体間で最大約12倍の差が認められた。トポI阻害剤に対する肺癌の自然耐性にはトポI遺伝子変異の関与は考えられず, トポI量の差の関与の可能性が示唆された。

65. 肺癌細胞株, 肺癌組織におけるIL-8産生と血管新生

九州大胸部疾患研究施設

八並 淳, 鶴田伸子, 川崎雅之
若松謙太郎, 高山浩一
川崎雅之, 中西洋一, 原 信之

無刺激で培養上清中に3 ng/ml以上のIL-8を産生する株は腺癌(4/8), 扁平上皮癌(3/5), 小細胞癌(0/4)であった。IL-8高産生株の血管新生能は抗IL-8抗体で抑制された。肺癌組織のIL-8発現は免疫染色では腺癌(10/38), 扁平上皮癌(8/21), 小細胞癌(0/23), 大細胞癌(1/2)であった。非小細胞肺癌におけるIL-8産生は血管新生を介し, 肺癌の進展に影響を与えている可能性が示唆される。組織での発現と臨床背景の関連も含め報告する。

66. 肺癌組織中のCD44 standardおよびCD44 variant 6の発現に関する検討

九州大胸部疾患研究施設

水野圭子, 落合早苗
若松謙太郎, 鶴田伸子